【本別町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1.　1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）では、「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。GIGAスクール構想にて整備された1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて、児童生徒が急激に変化し予測困難な時代に持続可能社会の創り手となることができるよう、その資質と能力を育成する学びを目指す。

2.　GIGA 第1期の総括

令和2年度に1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを整備した。令和3年度にはICT推進担当者会議を6回開催し、各小中学校から複数名のICT担当教員が出席し、1人1台端末をはじめとしたICT機器の活用について調査研究を行ってきた。学校でのICT活用は年々増加してきており、今ではほぼ毎日授業で活用されている。

しかし、教職員のICT活用に係る習熟度によって利用頻度に差があること、端末のデータ容量不足及び経年劣化等により年々不具合が増加し授業に影響を及ぼしていることが課題であるため、改善が必要不可欠である。

より効果的な児童生徒の学習、教職員の授業づくりにつなげるため、ICTに係る環境整備、教職員に対するサポートを推進する。

3.　1人1台端末の利活用方策

上記「1.　1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿」「2.　GIGA 第1期の総括」を踏まえ、「教育DXに係る当面のKPI」における「1人1台端末の積極的活用に向けた目標」「個別最適・協働的な学びの充実に向けた目標」及び「学びの保障に向けた目標」を念頭に置き、以下の方策を講じる。

端末の利活用の前提として、GIGA第2期の端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。

◆デジタルドリルの活用推進

KPI「1人1台端末を週3回以上活用する学校の率：100%(R6)」を達成する取り組みの一つ、及び個別最適な学びの実現、学力向上のため。

◆授業支援ツールの維持整備

大型提示装置への投影（特に全児童生徒の画面）、画面共有等を行うことにより、1人1台端末を活用した協働的な学びを実現するため。

（児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現させる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率：令和8年度までに80%）

◆オンライン授業に必要な機器の維持整備

不登校児童生徒、障害のある児童生徒や病気療養児等が授業への参加・視聴の機会を提供するため。

（希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率：令和8年度までに100%）

◆健康観察・教育相談システムの活用推進

児童生徒の心身の状況把握や教育相談を行うため、端末を活用した「心の健康観察」を行い、適切な支援につなげるため。

（希望する児童生徒への1人1台端末を活用した教育相談を実施している学校の率：令和8年度までに100%）

方策の検討に当たっては、GIGA第1期の課題について学校現場にヒアリングを行う。文部科学省リーディングDXスクールによる先進的取り組みや域内の他市町村の取り組み、課題を参考とする。